Ｂ－８

主題	寄り添うケアの実践で生きがいを見つける場所となるために
副題	幸町デイサービスセンターのチャレンジ

キーワード１	居場所作り	キーワード２	存在意義	研究(実践)期間	１２ヶ月

法人名・事業所名	社福）三育ライフ　東久留米市幸町デイサービスセンター
発表者（職種）	榊ふみ（相談員）
共同研究(実践)者	二渡明美（管理者）

電　話	042-470-8187	ＦＡＸ	042-470-8188

事業所紹介	平成 18 年に東久留米市で公設民営として開設し今年度で１５年目となる。 現在の定員は３４名。平均介護度 1.3 と活動的なご利用者が多く、毎日多種多様なプログラムを提供し活気あふれるデイサービスを展開している。

《1．研究(実践)前の状況と課題》

当施設では７０名様のご利用者様が通所されている。当センターは、一人ひとりのご利用者がデイサービスに期待するもの、叶えたいことなど、意欲的な方が多く、その望みを可能な限り実現出来るように支援すること私たちの重要課題と常に捉えてきた。

７０名それぞれの思いや願いがあるように、自分自身の思いや伝えたいことは何か、言葉にして伝えられる方もいるが、そうでない方も多い。そこで、一人ひとりにあったニーズをくみ取り、そのご利用者様の存在意義を感じられる、居場所づくりが充分に応えられていないのではないかという課題が見えてきた。

《2．研究(実践)の目的ならびに仮説》

当施設に通われているご利用者の思いの強さや願いに、何か応えることは出来ないかと考えた。今まで以上に個々に寄り添うケアを実践するために、もっとその方を知り、どんなアプローチができるのかを探る必要を感じた。

そこで、回想法や作業療法を取り入れることにより、その方を深く知り、その方にもっと寄り添い、もっと居心地の良い場所になり、地域で住み続けることができるようになるのではないかという仮説を立て、検証した。

《3．具体的な取り組みの内容》

個別にご利用者と向き合い、その方の思いの実現のために関わり方を模索する中で回想法や、作業療法という方法を用いた実践例から２つの取り組みを上げる。

事例１：要介護２、７９歳、男性。脳梗塞で約３年老人保健施設へ入所されており、在宅復帰され、デイサービスに通うことになったＡさん。自宅では車椅子での生活。

無断転載・複製を禁じます。

リハビリデイサービスへ通うも、長続きせず、以前農業をされていたことから、デイサービスの庭にある畑で作業療法を取り入れ関りを持つことにより、居場所をみつけたＡさん。

月曜日から木曜日午前 10 時から 11 時 30 分の時間で、クワやカマを使い、雑草を取り、肥料や種をまき、畑づくりを行った。

事例２：要介護５、８６歳、男性。趣味も多く、多彩な才能を持っていたＢさん。

令和３年４月に末期癌で余命１カ月であることが分かる。体力の低下と共に、Ｂさんは自分自身が未来に伝え残したい事を皆に伝えたいと思い行動される事が増えた。体力もない中、私達に出来る事を模索した。生まれ育った岩手県の事を話される機会も多い事から、ＩＴ機器を使い回想法を取り入れ、関わる時間を設けた。

《４．取り組みの結果》

事例１：以前行っていた農作業を行うことで、体力の維持と向上、可動域の広がりにより動作はスムーズになり、表情が明るくなるなどの変化がみられた。在宅生活の継続に繋がり、目標、存在意義を持つことが出来た。

事例２：ＩＴ機器を使用し、動画や写真、地図を見る中で、幼少期の話や校歌を口ずさむ事もあり、一瞬でも病気の事を忘れる事が出来、穏やかな表情をされ過ごされた。１日１日を大切に過ごされ、デイサービスで過ごされた様子や写真をご本人のノートに貼り、ご家族様とも時間の共有を行うことが出来た。

そのご利用者様とご家族様にとってのこころのケアにも繋がったのではないかと考える。

２つの事例の取り組みで、その方の思いに寄り添う事により、個々の思いに触れることが出来た。当デイサービスセンターが、より居心地の良い場所に近づいたのではないかと思われる。

《５．考察、まとめ》

当デイサービスセンターの意義と効果の要因を以下の３つにまとめた。

① 要介護者の多くは、周囲からの充分なサポートを受ける立場になるが、当デイサービスセンターに来ると、サポートする側になり、意欲や自信に繋がるのではないか。

② 「誰かの役にたつ」作業は、生きがいやその人の生活を豊かにしていくのではないか。

③ 自分の役割があることで、存在意義が実感できるのではないか。

《６．倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《７．参考文献》

「作業療法の話をしよう」（2019 年）吉川ひろみ、医学書院
「なぜ、「回想療法」が認知症に効くのか」（2011 年）小山敬子、祥伝社新書
「認知症 plus 回想法」（2019 年）鈴木正典、日本看護協会出版会

《８．提案と発信》

自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう、寄り添うケアを実践し、もっとその方を知り、どんなアプローチができるのかを探り続ける事が大切である。

そのためには、これからも個々と向き合いニーズを読み取り、存在意義を感じて頂けるように支援していく必要があると思われる。

無断転載・複製を禁じます。